

最初の面談の時、一人ひとりの苦痛を聞かせていただき、たつたひと言であつても、その方の生きる力に触れさせていってほしい。お願いをもらって面談しています。(平成26年10月 眞鍋千賀子)



ご周知の通り代表 眞鍋千賀子が十一月十八日永眠致しました。生前より頂きました皆様方の温かいご支援、託して下さいましたお心、誠に有難う御座いました。そして、数々のお問い合わせ及びお悔やみを頂き有難う御座いました。皆様方の眞鍋千賀子及びベトサダに頂きました多大なご厚情、心より感謝いたします。

葬儀は密葬という形で行いました。そして十二月五日 眞鍋千賀子を偲ぶ会を関連団体様等のご協力により、開催しました。一三〇名程参加して頂き偲んで頂きました。こんな事するならもっと困ってる人を助けてあげて！と生前の眞鍋ならおっしゃると思います。皆、皆さんも最後のお別れをしたいとの気持ちがあり、執り行いました。謹んでお礼申し上げます。有難う御座いました。

生前眞鍋から言われていた「私が死んだら路上にいます。おじさん達に知らせて、一日でも早く脱路上をし、健やかな生活をしてね。身体を大切にね」と云う言葉を十一月二十一日朝回りで伝えてきました。おじさん達もかなり悲しまれて、しばらく言葉も出なかったみたいでした。そして眞鍋の思い出話を下さいました。本当にいい人だった。皆、皆さん共通の締めくくりの言葉でした。これからベトサダはどうなるの？とよく大変だけれど頑張って続けて行つてね！と励ましの言葉も頂きました。

ベトサダの眞鍋「ベトサダ」と云うネームバリューは全国区ですが、スタッフは最も古い私でも4年のキャリアしかなく、ベトサダと云う看板と現行スタッフでは大きな差があります。ベトサダはこれからも眞鍋千賀子の遺志を受け継ぎ活動を行って行く所存で御座います。まだまだ未熟な私達ですが何卒宜しくお願い致します。

事務局長 藤原

11月18日夕刻、いつものように食材を取りに、前事務所があったビルに向かいました。

ビル前には救急車が停まっており、駐車場が無いたろ〜と思いつつ速度を落とすと、目の前に関連団体の代表が飛び出て来ました。

『この救急車の後を追って行ってくれ！』全く意味がわからないまま車を走らせていると、事務局長から電話が入りました。

『代表が倒れた！』という事は…目の前の救急車の中に眞鍋代表が…

少し遅れて大学病院に到着し運ばれた先に行ってみると、入り口には救急隊員が。恐る恐る状況を聞いてみたところ、軍内で心肺停止でした。

ご存知の方も多いと思いますが、ベトサダの男性スタッフは全員、この施設の門をくぐっています。困窮し疲弊し、このベトサダに助けを求め、そして眞鍋代表の面談を受けた者です。

私もちょうど2年前、入荘翌日に面談を受け、その場でスタッフに誘われました。たしか買方にもこの活動を手伝って欲しいの。『こんな言葉だったように記憶しています。』

しばらくして代表の『専属運転手』になりました。朝晩の教会でのミサの送迎や病院への送迎、スーパーでの買い物、少し離れた街にある大学で講義依頼を受けたのでその送迎等。車中でたくさん、色々なことを話し、教えてもらい、怒られてもきました。春になり新川通りの桜並木が綺麗だったので、教会の帰り道に寄って見たら予想以上に喜んでくれて、私の方が嬉しくなったりもしました。

私は今、ベトサダの施設長としてこれからの有り方について危惧を覚えています。ベトサダ眞鍋千賀子であったのは疑いようのない事実です。

施設の運営に関しては私たちが精一杯担って来ましたが、入荘者の心の叫びを傾聴し、寄り添い、生への希望を共に見出す、それは眞鍋さんの豊富な経験から来るものであり、敬虔なクリスチャンとしての『人間への愛』があつたからこそ感じています。

眞鍋さんの真似はできません。しかしベトサダは歩みを止める訳には行きませんし、単なる『無料宿泊所』に成り下がる訳にも行きません。ベトサダが何故『ベトサダ』に成り得たのか。今一度、眞鍋さんの教えを胸に刻み、一歩ずつでも前に進んで行きたいと思っています。

眞鍋代表、伝えて頂いた『ベトサダスピリッツ』。大切にします。ゆつくり、休んで下さい。

施設長 山崎

『巨星墜つ』この言葉の意味するものを今まで我が身が感ずる出来事は、有りませんでした。

代表には約1年間、お世話になりました。この間、困っている人に対する支援とは何か、支援する側の成すべき事とは何かを、色々な場面において教えを説いて頂きました。今思えば、自己犠牲の上になり立つ献身的な考え方のもと、自身の信念を熱く話されていた事を思い出します。

代表と日々接する中で、何故そうまでして他人に自身の手を差し伸べ、そしてその人の人生なのにその人より諦めず寄り添い、共に歩く事が出来るのか。何がそうさせるのか。今思えば、私は不思議な感覚で見えていました。

代表が教会に通われている姿を間近に見ていた人間としてそれが段々と、臆げながら今になって理解出来てきたように思います。人は一人では生きて行けない。神と言ふものが人を創ったとしたならば、そう創りあげたのだから。だから一人では苦しみ、困っている人に慈愛の気持ちを持ってその人の苦しみも、我が事のように想い接しているのだと。

代表が北海道の地で、困窮者と言われる人に支援を始

めてから十年以上の月日が経っていると聞きます。この間に救われそして自立して行った人たちは何人になつてしょう。

ベトサダに来た事がきっかけで、それぞれが自身の人生を考え直し自立して行った人達を代表は、どんな思いで見ているのでしょうか。代表を失った事は法律が整備されそれが始動した初年度に、北海道の困窮者支援をしている世界では、大変大きな痛手となりました。

私は今後の北海道における困窮者支援が停滞する事なくそして、代表が創り上げたベトサダの泉を枯らす事なく、微力ながら困っている方々のため活動して行こうと考えております。そしていつの日か私自身本当の意味において自立して行く事が、代表に対し私が出来る唯一の供養と思っております。巨星墜つ 心よりご冥福をお祈りします。

スタッフ 二瓶



私は、眞鍋さんと出会ったのは半年前で、眞鍋さんとの思い出はあまりありません。ですが会う度、私の事を心配してくれたり応援してくれたり、いつも元気で笑顔な眞鍋さんしか見た事はありませんでした。

最後に会話した時、眞鍋さんは私がそれまで見たことが無かった眼鏡をしていて、私とその眼鏡お洒落で可愛いですね」と言うので、すごく嬉しそうに『そう？ありがとう』と笑顔で返してくれました。今だからこう思うのです。もっと話したかった。しておきたかった。でもこうも思うのです。多分、今の私を見たら落ち込んでる暇があるなら活動に力を注いで一人でも多く困っている人を助けてあげてと言おうだろうな。変わらず笑顔で見守ってくれているのだろうと思います。



私は現在ベトサダで主に調理を担当しています。ベトサダを支えて下さる皆様から頂戴した食料品を調理して、入荘者に提供しています。ベトサダにいる間の食は特に大事で、それを唯一の楽しみに行っている入荘者の方が沢山います。

無事にベトサダを退荘して自立出来る方が沢山いるのも支援して下さる皆様のおかげです。ベトサダは歩みを止めません。言葉は悪いですがベトサダが繁盛するのは良くない事です。こういった施設が必要のない社会が理想です。絵空事かも知れませんが、ですが諦めもしません。困窮者を一人でも多く救いたい。そして救われた人は今度は救う人になって欲しい。そう思っています。今後ともベトサダをよろしく願います。

スタッフ 吉川

ベトサダにお世話になつていたのは、一年ちょっと前。三日後にはミディアムの調理部門に移りました。その時から、毎朝のように代表とは顔を合わせることになりました。美味しかったわよ！頑張つてね！代表の言葉は、いつも元気づけてくれました。それがいつの間にか日常の一部となり、当たり前のように感じになつていました。

面談した時も、ただ話を聞いてくれてうなずいていました。それでも私にとつて 話を聞いてくれる人が、ここにはいるんだと思えました。それは私だけでなく、多くの人達が思っていた感情だと思えます。代表の代わりになれる人は、そういないと思えます。それでも代表の意思を継ぎ、多くの人達に繋いでいく事が私達に課せられた使命だと思えます。多くの事は語らなくても、その人の行動がわかってもらえば、きっと何か出来る筈です。代表がそうだったように。

スタッフ 工藤

しっかりとしなければいけない。頭ではわかっているのに、私の目も耳も、はつきり眞鍋さんを憶えています。手を繋いだ温かさも残っています。

代表とスタッフの関係も勿論ありますが、私生活では母娘のようなお付き合いをさせて頂いておりました。

深い信仰心とご家族への愛の言葉、ベトサダを支えて下さる支援者の方々とスタッフへの感謝の言葉、二人でいる時たくさん話しました。

愛用のひざ掛けは、今、私のひざの上に。大切に育てていらした鉢植えも私が育てています。そして、眞鍋さんが大切にしていた願い・想いは、支援者の皆様とベトサダスタッフで力を合わせて繋いで育てます。

だから、見えて下さいね。私、眞鍋さんがとっても好きでした。

事務局 佐藤

方々より、沢山の心お言葉を頂き、心より感謝致します。

あらためて、ベトサダには深い真心に支えられてると思いました。

本当に、ありがとうございます

